志望理由250

農業が抱える問題を解決したいと考えた為です。私は実家が農家である事から、農業を手伝う事で作物を身近に感じておりました。その経験から、より良い作物を将来は生み出したいと考え、大学では植物の環境ストレス耐性遺伝子について研究しています。その過程で、研究室での実験以外にも、課外活動として、農村地域へ出向き、農作業を行う事で、農業が抱える深刻な問題などを学ぶうちに、今度は農業の現状を変えたいという思いに変化していきました。植物が身近にあり続けた人生の新たな一歩として、生まれ育った静岡県の農業を盛り上げていきたいです。

静岡県職員として取り組みたい事250

私の夢は「守られる農業」から「強い産業」に農業を変える事です。その為に、

現在農業が抱える後継者不足問題、若者が農業に対して持つイメージを少しずつでも改善したいです。就農したい若者を積極的にサポートし、地域特産品のブランド化支援、６次産業化など、農業を儲かる産業とし、現場で人々と触れ合いながら、10年、20年先を見据えた農業改善をしていきたいです。すぐに成果が見えないかもしれませんが、農業普及指導員として、農業を更にのばし、自由な選択ができる今の時代だからこそ、農業を選んでもらえる様な活動で、静岡を盛り上げたいです。

努力して達成感を得た事250

一年半で、日常会話や研究の発表を英語で行うまでになった経験です。二年前に数人の留学生が研究室に所属しました。私は実験を教える際に英語がうまく伝わらず、ミスを招いてしまう事がありました。また、ゼミでの発表も全て英語となり、うまく説明出来ない歯がゆさを感じました。そこで、参考書を毎日一項目ずつ勉強し、普段から留学生達とコミュニケーションを取る事でネイティブな発音を意識しました。その結果、徐々に自然な会話が出来るようになり、発表でも考えを伝える事が可能となりました。今後もこの【継続力】で与えられた仕事を着実に行いたいです。

失敗して挫折した事250

高校時代のサッカー部での経験です。私はサッカー部で副部長を務めておりました。部員も少ない為、試合では良い成績を残す事が出来ずにいました。そこで、最後の大会は県大会出場を目標にしようとチームで決めました。その為に、私は一人で朝練習を始め、自分の技術や体力を向上させました。しかし、いざ試合に挑んでみると、全く勝つ事が出来ませんでした。個人のプレーが少し向上してもチームスポーツでは通用せず、県大会出場どころか一勝もできずに最後の大会を終えました。この経験から、時には周りを巻き込んで行う行動力や積極性が必要であると学びました。心掛けて

得意な事長所150

私の長所は【継続力】です。その理由はクロスカントリー大会優勝の経験です。私の高校ではクロスカントリー大会があり、初めて参加した際、入賞さえできませんでした。その時、来年は優勝すると心に決め、毎朝走り込みや、筋力増強を一年間続けた結果、翌年に優勝する事ができました。目標を持ち、やるべき事をコツコツ続ける精神は今後も活かしたいです。

苦手な事短所150

「決断力の弱さ」です。大学の文化祭実行委員の責任者となった際、作業計画などの最終的な判断は私に一任されておりましたが、慎重になりすぎた為、作業開始が遅れ、締め切りまでメンバーと徹夜する事態となりました。この反省を踏まえ、今後は迅速で正確な判断で、効率的な仕事が出来る様、現在の研究室チームリーダーの立場で意識的に養っていきたいです。

新規採用職員必携を読んで400

私が考える静岡県職員に必要な意識と行動は三つあります。一つ目は、「倫理や法を順守する事」です。近年はハラスメント問題や公務員の淫行や収賄による逮捕など、人として有るまじき事件が数多く報告されています。まずは、県職員の前に、人として守るべき倫理や法を順守する事で、県民からの信頼を得る事が出来ると考えています。二つ目は「どんな事も誠実に全力で取り組む事」です。県職員の仕事は多岐にわたり、嫌な仕事も必ず経験すると思います。そういった仕事をいかに前向きに取り組むかで、自身の成長や仕事の幅を決めると考えています。もし、後ろ嫌な仕事を向きに取り組み失敗すれば、ネガティブな思考と失敗を二重に反省しなければならないが、前向きに取り組めば、失敗を次に生かせばよいからです。最後に「広い視野を持つ事」です。静岡や日本に留まる事なく世界にも目を向け広くアンテナを持つことで、良い部分を静岡に還元し、静岡の更なる進化に貢献したいです。

より静岡県を盛り上げる事に繋がると考えています。さらに、全力で取り組む事で、自分の能力を把握でき、次のステップアップや周りからの信頼も得られると考えています。この二点を特に意識し、

行動していきたいです。

美しい富士の国長期人口ビジョンを読んで400

私は静岡県をより盛り上げていく為に必要だと感じた事は「雇用の創出」です。なぜ若者が東京圏へ流れてしまうのかを考えた時に一番の理由は働き口を求めているからだと思います。しかし、静岡県には「雇用の創出」を実現させる「タネ」が多く存在していると考えています。日本でも指折りの「ものづくり県」であり、世界遺産、温泉地など日本有数の観光地。さらに、温暖な気候を活かした農産物や駿河湾の海の幸など、静岡の特色を活かせる「雇用のタネ」が無数にあります。また、単純に働き口を増やすだけでなく、女性や高齢者でも働きやすい環境、首都圏や世界とのやり取りを密接にする陸・海・空の交通ネットワーク強化も重要であると考えています。これらの「雇用の創出」によって県内の若者の流出を防ぎ、かつ県外からの求職者を静岡県で受け入れ、人口増加に期待が持てると考えました。そして、誰もが働きやすく、生活したい県に静岡県をしていきたいです。

雇用の増加は何よりも重要だと考えます。静岡県は日本有数の「物作り県」であり、「観光地」でもあります。雇用の増加は東京圏への若者の流出を防ぐとともに、県外から雇用を求めた人々の定着にも繋がるからです。